

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502801), 法人名 (メディカル・ケア・サービス株式会社), 事業所名 (メディカル・ケア・サービス北海道株式会社), 所在地 (北海道札幌市南区川沿4条3丁目5-37), 自己評価作成日 (平成26年11月21日), 評価結果市町村受理日 (平成27年1月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご家族様との関係作りを大切にしており、行事への参加等の声掛けを多くしコミュニケーションを多く取っています。
・ご利用者様の一人一人と向き合う事を大切に、夢を叶えよう、と題し希望を聞き1対1(個別ケア)での外出を実施しています。
・ご家族様のケアカンファレンスへの参加が定着しており、ご利用者様も含め日々の暮らしについて話し合い共に協力し合い、ご利用者様を支えています。
・介護スタッフだけではなく、事務、看護師などの専門職も在沖しています。
・地域との関わりを積極的に、児童館との交流も定着しつつあります。また認知症ケア講座も開催しております。
・往診医療機関との勉強会でスキルアップや信頼関係の構築に努めています。
・ホーム内研修、外部研修を実施して色々な分野での研修を行いスキルアップに努めています。
・年に1回事例研究発表会を行いケアの質の向上に努めています。
・ホーム外の敷地が広く地域との交流スペースとして活用しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanitrue&JigyosyoCd=0170502801-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月8日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛の家グループホーム川沿は、開設から11年目となる2ユニットの事業所である。職員のケアの質向上には法人全体で取り組んでおり、職員による研究発表や内部研修の充実が図られ、職員が利用者一人ひとりに合わせたケアについて考える力を養っている。事業所では、利用者の生活の基本的な部分を支えるケアと、一緒に暮らす利用者同士の交流や地域の一人として外部とのつながりを大切にしている。また、排泄ケアや排泄の自立に向けた取組を地道に行うことで利用者の意欲を引き出し、趣味の継続や外出への意欲など、「夢の実現」の支援へとつなげている。利用者個別の支援はもちろん、家族を含めた利用者同士での行事や外出に力を入れている。特に第15期ホーム目標である「子どもたちとの交流の場を作る」には職員一丸となって取り組んでおり、次世代を担う子どもたちとの年齢を超えた交流と、小学校にリングブルを届ける活動など、お互いに良い影響を与え合える関係の構築に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects like staff-user relationships, community engagement, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて唱復し、秋祭りなど地域の方にも呼びかけ、児童会館とも定期的に交流を図るように努めています。	法人理念と事業所理念、ユニット理念があり、朝礼で唱和している。また、現在は第15期ホーム目標及び職員個別の目標を掲げ、理念がそれぞれの支援に浸透するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区センターにてのふれあいサロンや児童会館の子供たちと交流の機会を定期的に設けている。	事業所の秋祭りの実施や地区センターのサロンに出掛け、利用者が地域との交流ができるよう工夫している。ホーム目標でもある児童会館との交流が活発に行われている。	事業所では、事業所の祭りや地域向けの認知症の勉強会を開催するなどの取組みを継続している。ボランティアや子供たちとの交流はあるが、非常災害時の協力関係などの構築に今後も取り組むことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて少しでも認知症を理解して頂けるように講演会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を職員全員で共有し、会議で出た意見などをもとに、普段のサービスに活かすように努めています。	運営推進会議は年6回、定期的に開催している。会議に出席が難しい家族には来訪時に議事内容を伝えたり、家族会の中で事業所の取組みを伝えアドバイスを受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議等に参加し、情報の共有や、協力関係を築き、得た情報を日々のケアに活かせるように、職員全員で情報の共有を図っています。	札幌市と南区で開催される会議に出席し、行政や地域の動きや法令の改正などの情報を得ている。職員も会議等の内容を共有し、適切な運営に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議、研修、日々の連絡事項など、定期的に繰り返し周知することで、全員で共通の認識を持ち身体拘束の無いケアに努めています。	職員は、毎年度身体拘束に関する研修を受け、認知症高齢者の生活環境が閉塞的にならないよう取り組んでいる。職員同士でも、椅子とテーブルの配置で利用者が自由に動けないような状況がないかなど、日頃から検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修を繰り返し行い職員全員で共通の認識を持ち、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会を作っています。ホーム内での研修や、外部の研修に参加し、知識、スキルを身に付ける事が出来る様な体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、入居相談、契約の際にも十分な説明を行い、十分に納得して契約して頂けるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱を設置し、いつでも言ってもらえるように努めています。また、ご家族様にアンケートを実施し、結果を職員で共有することで、日々のサービスなどに反映させています。	毎年法人で家族アンケートを実施し、結果を玄関に備え付けている。「ほのほの通信」を発行し利用者の様子を写真で伝え、家族の来訪時にも個別の様子を丁寧に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見を聞く、言える環境を作るように努めている。年に一度職員アンケートを実施し、スタッフ会議等でも意見交換を行っています。	職員面談を半年ごとに行い、職員個別の意向を把握している。面談や会議の際に出た意見は業務や研修の実施に反映している。内容により法人本部とも協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己が成長できるように、全員でマイチェンジを設定し、成長を意識することが出来るように努めています。また、資格取得支援や表彰制度も設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月必ず全員がホーム内での研修に参加できるような体制をとっています。ホーム外での研修も出来るだけ全員が参加できるような体制を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修会や、法人外での研修に参加し、同業者との交流や、情報交換を図り、知識やサービスの向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご本人様と入居前に面談させていただき、心身の状態を見分し、情報の共有をスタッフ全員で図り、ご本人様の入居後も不安や要望などに耳を傾けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前の段階で不安や要望を伺い、入居後も都度不安や困り事などないかを伺うように、良好な関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に時間をかけ要望や意見を伺い、じっくりと話し合ったうえで、必要としている支援を見極めることが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様を尊重した関係づくりに努めています。一緒に調理を手伝って頂いたりし、ご本人様の力を発揮して頂けるように、又教えて頂くことで人生の先輩としての尊厳を持って頂けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の要望や希望など共にご本人様を支える者として、意見などを交換出来る様な関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の今まで大切にしてきた物、場所、人とも関係性が途切れる事の無い様に、外出したり、お話ししたり出来る様な環境づくりに努めています。	利用者個別の夢を叶える取り組みが定着している。家族や、相手先施設との連携により旧友との再会を果たしたり、懐かしい場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入することで利用者様同士の関係づくりのきっかけになるように、又その関係性が継続していけるような支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、関係性を変えることなく、共に支え合う気持ちで、気軽に相談できるような関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に直接伺ったり、それが困難な方は日々の生活の中からヒントを得たり、会議などで定期的に職員間で話し合う様にしている。	利用者の昔の話や生活歴を参考に、現在の様子をセンター方式の24時間シートにまとめている。職員が利用者の気持ちを汲み取り、夢の実現へつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や日々の本人様のご様子などから模索し、得た情報をスタッフ間で共有し話し合う様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ミニカンファレンスを行ったり、センター方式を活用することで、本人様の生活のリズムを大切にするように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員でモニタリングを行い、情報を共有し、話し合ったうえで介護計画を作成しています。	利用者ごとの担当職員がアセスメントを行い、会議で職員が話し合って介護計画をまとめている。利用者と家族の思いを踏まえて「真のニーズ」を介護計画に乗せられるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の表情、言葉を細かく記録し、全員で共有し、介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族様の状況に合わせ、通院など柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店に買い物に行ったり、お祭り等行事を開催し、地域の方にも参加して頂くことで、関係性を深めることが出来るように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と協力しながら通院をしたり、医師、家族様、ご本人様と良い関係性が持てる様に協力合っています。	往診医と事業所の看護師が利用者の日常的な健康の支援を行っている。専門医への受診の際には往診医から必要に応じて文章を渡すなど、受診の際の連携を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護師を確保しており、ご利用者様の心身の状況や健康管理に努めています。又、情報の共有もしっかりと行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院と連携を取り、情報の共有を図っています。随時お見舞いに行くことで本人様の現状を把握し、病院、家族様と話し合うことで早期の退院に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入居時に重度化に伴う確認書を作成しご本人様、家族様にしっかりと説明しています。その他にもカンファレンスなどで話し合う様にしています。	契約時に文章で重度化や看取りについて説明を行い、家族や利用者の意向を把握している。医療との協力や職員の研修を実施し、実際の支援の報告も運営推進会議で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備え、職員全員が対応できるように、定期的にホーム内で研修を繰り返し行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防に協力を依頼し、定期的に避難訓練を行っています。又、出来るだけ全員が参加できるような体制をとっています。	年2回、昼間と夜間想定避難訓練を実施している。スプリンクラーと2方向の避難口がある。災害マニュアルがあり、備蓄も3日分用意している。	定期的に避難訓練を行っているが、事業所職員以外の参加がない状況が続いている。緊急時には同法人の福住のグループホームの協力が得られることになっているが、近所からの訓練参加など、日頃の関係づくりに取り組むことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣などは特に気を付けています。個人としての人格を尊重し、本人様に合ったペースで生活して頂けるように支援しています。	利用者の気持ちを大切に、拒否があっても雰囲気や気分が盛り上がるような支援を行い無理強いをしないようにしている。接遇の研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定出来る様な環境を作るように努めています。声掛けなどを工夫し遠慮せずと言って頂けるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に出来るだけ添えるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装などご本人様が自己決定できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あまり食が進まない時は無理をせずにご本人様の好きな物を提供しています。ご本人様の食事形態についても都度職員間で話し合う様にしています。	本社で作成した献立をもとに食事を提供している。利用者も準備や片付けを行っている。居酒屋の日や利用者の誕生日にケーキを作るなど、楽しめる企画を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの物や、水分としてゼリーを提供したりし、一人一人にあった支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。不十分な方は介助させて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、必要のないおむつなど使用しないように、トイレへの誘導を行ったり、本人様にとって本当に必要であるかを職員間で話し合い検討しています。	利用者が快適で生活に意欲が湧くよう、排泄支援にも力を入れている。失禁がある場合は安易なパッドの導入ではなく、原因を検討し工夫することで自立に向かえるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示の元下剤調整を行ったり、日常生活の中に、体操を取り入れた予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっておらず、自由に入浴ができるように努めています。入浴嫌いの方も間隔があくことの無い様に、楽しんで入浴して頂けるようなアプローチをしています。	週に2回から3回の入浴ができるようにしている。午前と午後の好きな時間帯に入浴してもらっている。また、湯の温度など利用者ごとの希望を聞き、リラックスできるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように気を付けています。日中でも眠たい時は居室で寝て頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は目の届く分かりやすい場所に置いてあり、疑問、分からないことはすぐに確認する様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前よりの趣味などは継続して行い、趣味の無い方でも簡単なお手伝いをして頂いたりし、日々の生活に楽しみを見出せるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状況に合わせ、買い物に行ったり、ドライブに行ったり、地域の行事に参加する様に努めています。	食材の買い出しには週2回ほど利用者が一緒に出掛けている。定期的な地域の催しへの参加やドライブや外食、行楽地への訪問などで出かける機会を多く持てるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での支払いなどを行って頂いたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ電話したい時はいつでも電話できることを伝え、電話は居室で行える様に配慮しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や、環境づくりに努めています。空間も広く取り車椅子でも自由に行き来することが出来るようにスペースを確保しています。	ユニットのドアを開放し、利用者が閉塞感を感じないようにしている。湿度管理を行っている。事業所内の自動販売機で利用者が小遣いで飲み物を購入することもできる。居間には畳のスペースやソファ、廊下の奥にもベンチがあり、好きな場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置や場所は自由で気の合う方同士で過ごして頂いたり、その都度対応しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけなじみの物を使用して頂き、今まで通りの暮らしが継続できるように支援しています。都度情報を家族様と共有し話し合う様に努めています。	使い慣れた家具を持ち込み、それぞれの部屋を設えている。ドアには鍵があり利用者が自分で鍵をかけることもできるなどプライバシーにも配慮している。三味線など趣味が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どうしたら安全に過ごせるかを職員同士話し合い、情報の共有に努めています。全員の状況が把握できるように、小さなこと、細かい事も話し合う様にしています。		